

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年1月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4693900039
法人名	株式会社 ケア&サンズ
事業所名	グループホームよかよかん
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町虎居1553番地2 (電話) 0996-53-3099
自己評価作成日	平成30年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、援助の実践をします。ここでいう援助とは、「苦しみを和らげ、軽くしなくすること」をいいます。その人が、暮らしの主人公として、暮らし続けていくことができるよう援助し、理念を意識しQOL(生活の質・人生の質)の向上を目指しています。よかよかんには、「扉」や「時計」はありません。過去、現在、将来の時間の流れを、様々な障がいや環境などによって遮られることなく、人としての可能性を援助していく事ができる環境への配慮です。建物は、光や風や音や匂いなど五感へのアプローチが自然とできる設計をしています。併設する事業所(小規模多機能ホーム・グループホーム)とは、朝と夕に各ユニット一人ずつ集まりミーティングをします。内容は、その日の課題(気づき)について協議したり、利用者様の状態を共有します。全職員が「ひとり」の利用者様にとっての人的な環境という意識を持つ訓練としても実践しています。夜間は、0時と4時に連絡を取り合い、何かあった場合の備えとして、職員間で連携がとれるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは町の中心地に近い住宅地の広い敷地に小規模多機能施設と共に設置されている。各施設間は全利用者の交流が図りやすくCOMMONスペースで繋がっており、建物内部は天窓があり明るく、共有部分及び居室共に開放的で余裕ある構造となっている。利用者は四季を感じながら好みの場所で寛ぐ等、平穏に過ごしている。

○ 管理者及び職員は、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや喜び、悲しみ、苦しみ等の気持ちを把握し、理念に沿って「苦しみを和らげ、軽くし、なくすること」の実践に努めている。利用者がその人らしく生きがいのある暮らしとなるように、清掃や環境整備、コミュニケーションに努め、利用者の意向を尊重した柔軟な支援に取り組んでいる。支援の状況は、ホーム独自の様式「私のよかよかん日記」「バイタルチェック表」等に詳細に記録され、利用者の発した言葉をそのままを記録して情報の共有を図りサービスの向上に努めている。

○ 管理者は、日頃から業務に対する意見や要望、また、職員の個人的事情等を把握して、業務の改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。職員のスキルアップを図るための研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、外部研修の受講や勤務シフトには可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。特に外部講師による、「対人援助」をテーマにした研修は、毎年度、選考された職員を対象に年数回、計画的に継続されており、現在3期生が受講中である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	①仕事に入る時、理念を読んでいる②自分の目標を理念に基づきホワイトボードに書いている③毎日のミーティング時は、理念に基づき事例を検討している④退勤時は、振り返りをしている	理念を、ネームプレートの裏面に記載し、自己目標をボードに記入するなど工夫して意義の共有を図っている。申し送りや日頃のケアの中、ミーティング等で、ケアの振り返りや意見交換を密に行って、理念に沿った支援の実践に日々取り組んでおり、外部講師による「対人援助」をテーマにした研修も年数回、計画的に実施されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①西町公民会に入っている。②近所の方が野菜や料理のお裾分けをしてくださる。③町内にある高校から、実習生の受け入れをしている。	自治会に加入し、利用者が地域に思いを馳せ、また、関わりながら生活できるように地域の情報把握に努め、運動会や夏祭り等の行事に参加している。ホームの敬老会には、家族や地域住民の参加があり、日頃の散歩や買い物、通院時に地域の人々との挨拶や会話を楽しみ、家族や友人の来訪、ボランティアや中・高校生の職場体験等の受け入れ、農産物を頂くなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	①毎日のミーティングで援助の振り返りを行っている②認知症サポーター養成講座において、講師として参加もしている③運営推進会議の中で「認知症について」というテーマをとりあげ理解を深めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2ヶ月に1回行っており、利用状況、活動報告、今後の活動予定を報告している②利用者、家族、各関係機関（行政、消防、警察、包括など）民生委員区長などに意見を聞いている。	会議は家族代表、民生委員、公民館長、町社協、包括支援センター職員、町職員等が参加して定期的に開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット等をプロジェクターも活用して報告し、委員からは利用者のケアや地域の高齢者に関する意見や情報、防災に関する意見等が活発に出されている。また、ホームの事例を基に意見交換する等、有意義な会議となっており、サービスの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	①運営推進会議では、役場職員や包括職員に参加して頂いている②連絡会を通して取り組みを伝えており、互いに情報を交換し関係性を築いている。	町担当職員には、運営推進会議に出席してもらいホームの現状や取り組みの理解を得ている。介護保険更新や各種報告書の提出、ホームの運営やケアに関わる相談や協議を日頃から行って、助言・指導を頂くなど協力関係を築いている。町主催の会合や研修会等にも出席して情報や意見の交換に努め、サービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	①ミーティングを通して身体拘束について研修を行っている。②理念を通じ、「拘束をできない」人を意識している③玄関には、センサー等の設置はなく、施錠についても夜間以外はしていない。	身体拘束や権利擁護に関する研修を計画的に実施し、身体拘束委員会も毎月開催して共通の認識を図っている。利用者の尊厳やプライバシーを大切にされた言葉づかいやケアの実践に日々努めており、不適切なケアに対しては申し送り時やその場で注意し合い、また、ミーティング等で意見交換して改善に取り組んでいる。昼間は施錠せず、対話や散歩等で安定を図るなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①ミーティングを通して虐待防止法について学んでいる②虐待がおこらないように、環境への配慮をしている③気づいた事などは話し合いをしている④包括支援センターや地域と連携を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	①権利擁護について学ぶ機会として、ミーティングと事例検討会でおこなっている②意思決定などに関しては、理念の「自律」を意識している③地域で困難事例がある場合は包括へ相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	①事前に利用者・家族の不安や疑問点を聞いている②契約書、重要事項説明書を用い、書面を通して確認し理解・納得を図っている③不明な点等が、ない場合は後で、気になった時に連絡を頂けるよう話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	①「私のよかよかん日誌」を閲覧して頂き、意見や要望を聞いたしている②FAXや連絡帳を通じ意見や要望を聞いている③要望や意見は、職員で共有できるように連絡帳に記載し全員が確認している④ミーティングで報告し、対応策を検討している。	利用者の意見や要望等は、日々の会話や表情、仕草、独自のサイン等から汲み取るように努めている。家族の来訪時には、利用者の近況を伝え情報紙「よかよかんの風」も送付して意見等を貰うように取り組んでおり、運営推進会議、ケアプラン見直し時、意見箱でも把握して、サービスの改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①朝・夕のミーティングにて、話をする時間がある。②日勤や夜勤帯の状態を現場に確認に来るので話す機会はある。③その他に、呼び止められて話をする機会がある④常に現場にいる。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日常の業務の中や申し送り、ミーティング、個人面談等で業務に関する意見や個人的な悩み等を把握し、業務改善やサービス向上に繋げている。勤務シフトや外部研修出席についても可能な限り職員の要望を反映させ、スキルアップや資格取得に対しても積極的にバックアップする等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	①就業規則に関しては、社会保険労務士が現場状況の確認に毎月来ている。②出勤時は必ず現場に入り職員の働く姿を確認し話を聞いている。③話ができる状況にある。④悩み事など一緒に考え行動してくれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>①資格取得の推進をしている。 ②法人内での研修、毎日のミーティングで事例検討など大事にしている。③外部講師を呼んでの、法人内研修。④法人外では援助についての研修に参加している。⑤事例検討会を企画・実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>①町内で行われる研修に参加している。②町内の福祉学校の実習生を受け入れている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>①来所あるいは自宅、医療機関に出向き、事前の状況を把握する②本人・家族の不安や要望を十分聞いている③本人が、暮らし方やサービスの内容について決めることが出来るようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>①家族の不安や困りごと、苦しみを聞く②援助や対応の方法について一緒に考えることで関係作りをしている③利用された状況を記録するだけでなく、直接（家族へ）話をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①「その時」の状況を判断し、サービスの提案をしている②本人が決めることが出来るようにしている③他の関係機関とも連携をとり対応している④本人の話をしっかりと聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者」＝「本人」と共に過ごし支え合う関係では、「仕事」に追われ「時間」を意識すると一方的になってしまいがち。私達は、「その人」＝「本人」へ意識を向けるよう気をつけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①自宅での介護で抱える不安や失敗など話を聞く②これからの、自宅での生活を共に考えられるように気をつける③色々な判断を迫られる場所には、できるだけ同行している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①本人のなじみの美容院や店に行っている②医療機関の継続支援をしている（かかりつけ医）③本人の続けてきたリハビリなど継続支援④面会の自由。（面会の制限がなければ）	本人の入所前の環境や生活状況等を把握し、利用者の馴染みの人や場の情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って散歩や買い物、外食、美容院での整髪、墓参等を家族と協力して支援している。遠方の家族にも情報紙「よかよかんの風」等で利用者の状況を伝えるなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①調理や洗濯たたみ、配膳など生活の中で自然にかかわり合い互いが支える関係性ができている②外出の機会も計画的に行っている③行事も計画的に行えている。④誕生日を祝う。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①契約の終了に至るまでの経過を大事にしている（内容に理解）②契約終了時には、いつでも連絡を頂けるよう話をしている③契約終了後も、電話をしたり、手紙を送ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	①事前の状況を把握する②本人・家族の不安や要望を十分聞いている③本人が、暮らし方やサービスの内容について決めることができるようにしている。	利用者の思いや意向を日頃の支援の中で把握に努め、申し送りやミーティング等で共有して、利用者主体の最善のケアになるよう取り組んでいる。その人らしい生きがいのある生活が過ごせるように、外出や趣味（ぬり絵、新聞購読等）、余暇時間の過ごし方は、利用者の習慣や希望に添って個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①家族の不安や困りごと、苦しみを聞く②援助や対応の方法について一緒に考えることで関係作りをしている③利用された状況を記録するだけでなく、直接（家族へ）話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①「その時」の状況を判断し、サービスの提案をしている ②本人が決めることが出来るようにしている③他の関係機関とも連携をとり対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お世話する側、される側、という意識では、利用者の出来ない部分を探し、介護することのみに意識が向いてしまいがちとなり、利用者、家族の想い、苦しみは置き去りにされがちになる。その為、利用者、家族の語りを促し、想いを尊重し、苦しみを和らげられるような介護計画になるよう努めている。	利用者及び家族の想いを汲みとり、主治医の意見等も把握して、モニタリングやミーティング時の意見等を基に具体的で解りやすい介護計画を作成している。ケアの状況は「バイタルチェック表」や「私のよかよかん日誌」等で共有し、本人主体のケアの実践に努めている。定期的な見直しに加え、状態の変化時には計画の修正等を行って実状に即した支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①自宅での介護で抱える不安や失敗など話を聞く②これからの、自宅での生活を共に考えられるように気をつける③色々な判断を迫られる場所には、できるだけ同行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①近所の知り合い宅へ会いに行ったりしている②本人のなじみの美容院や店に行っている③急な外出への対応をしている④何が現場であった時には、小規模を含め3ユニットで取り組む		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①調理や洗濯たたみ、配膳など生活の中で自然にかかわり合い互いが支える関係性ができている②行事など計画的に行っている③外出が自由にできる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人及び家族の希望を聞いたうえで各自かかりつけ医を受診している。②体調によっては往診依頼もしている。③歯科医院にいても協力歯科医院もある。④体調変化時は家族へ連絡し受診の有無について確認、報告している。病院への電話報告も行い、受診同行の援助もしている。⑤同行できない家族に対しては受診結果を必ず報告している	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。定期的な通院や訪問診療が実施され、専門医での受診も家族と協力して同行するなど、密に連携を図っている。日常的に健康管理が徹底され、通院時には利用者の身体状況を提供する等、医療連携体制も構築されて、利用者、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①小規模多機能ホームの看護職員とも協力を行っている。②相談や適切な受診や看護が受けられるよう支援している②医療の面に関しては、ミーティング時、注意点や病状の説明を行い情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時は、サマリーを作成し情報提供をしている②病院の相談員や医療連携室とは、日頃から電話のやりとりや、利用者の情報提供を行っている③病状の確認は看護師で応対し、状態の把握に努めている④退院前には、本人へ会いに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>①本人、家族の意向を聴きいている（契約の際）②必要に応じて話し合い行っていく方針である③「みとり」の実績があり、職員も多く関わりをもっている④医療機関との連絡体制など日頃から確認をしている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入所時に本人や家族に指針で説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを繰り返して、可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、これまで8件の看取りを実施している。看取り後は「デスカンファレンス」を実施して、スキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>①人工蘇生、AEDの使い方の講習を実践している②利用者の急変時の対応について主治医に指示をもらっている③主治医の指示を職員間で共有している④連絡体制の確保をしている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>①避難訓練を年2回実施している②運営推進会議で避難場所の確認など行った③さつま町の協力施設に加盟している④災害に備え、消防署への相談など行っている。</p>	<p>夜間想定を含む火災発生時の訓練を消防署も参加して年2回実施し、隣接の小規模多機能施設や地域住民との協力体制も築いている。職員への通報も組み入れた自動火災報知機やスプリンクラーが設置され、災害発生時の薬品やおむつ等の必需品、食糧品、飲料水を約3日分備蓄し、懐中電灯やラジオ等も整備されている。日頃から消防署と連携を図り、マスコミでの災害事例を基に意見交換するなど防災に対する共通認識に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①事例検討を朝のミーティングで行っている②就職の際には、敬語を使うよう指導を受けている。③管理者は職員個々の個性を踏まえ、指示、指導に心掛けている。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報保護等についてはマニュアルも整備し、事例検討の実施等で周知を図り、適切な支援の実践に取り組んでいる。利用者毎の習慣や思いを大切に、尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①理念に基づき、本人の話を聞いている②自分で決めて頂けるように支援している③決める事が難しい場合は、提案をし確認をさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①本人のその日の利用の目的を確認している②「したいこと」や「やりたいこと」が言いやすい雰囲気づくりをしている③ミーティングで話し合い、情報の共有をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	①毎日の服選びができるよう応対している②気兼ねなく化粧ができる空間作りに努めている③馴染みの美容院などが継続できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①旬の食材を見ながら、利用者と共にメニューを決めている②能力に応じ、食材を切る、味見をする、盛り付け、片付けなど行っている③食事を一緒に、同じ物を食べている。	利用者の嗜好や摂取制限、形態等を把握し献立に反映させて調理している。旬の野菜で季節感のある食事や、行事食、代替品の提供、餅つき、そば打ち、園庭でのバーベキューなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、職員も一緒に歓談しながら和やかに食事している。利用者毎に食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①食事摂取量のチェックを行っている②飲み物もお茶や水だけでなく嗜好を聞き対応している③嚥下困難がある方の場合、介助具や方法など全体で確認をしている④時間を分けての対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①食後に声をかけ歯磨きや義歯洗浄を行っている②自力で口腔ケアができない方には声かけ後に介助を行っている③口元や口臭などに気をつけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①排泄用具に関しては、「今」使用されているものについて話を聞く②状態によっては、排泄用具の変更や介助方法の見直しを行う③排泄の記録としてはチェックがあり記入している。	利用者毎の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事の摂取状況や水分補給、運動量等も把握しながら便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては、羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者毎に介護用品の工夫や支援方法等を介護計画に反映させて改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①身体の状態の把握として、以前の情報や本人からの話などを聞く②状態によっては主治医への相談をしている③排便のチェック票の記入をしている④水分量や運動量の確認をしてし、現状説明や提案をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	①入浴の時間割はない②入浴は事前に話を聞き、時間の調整など行っている③本人の話を聞く大事な時間として意識している④基本的に1:1の対応	毎日入浴できる体制が整えてあり、排せつの失敗等には即時に、清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望等にも体調に配慮しながら柔軟に対応している。個浴で利用者の好みの温度や時間に配慮し、ゆず湯にする等工夫して、ゆっくりと楽しめるよう支援しており、入浴後は水分の補給や、皮膚疾患の手当も行なっている。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間の変更や声掛け等を工夫して、本人の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①室温や温度、照明など環境を整えている②起床、消灯などは決まっていない③家での過ごし方などを聞いている④薬については、主治医へ話を聞いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①看護師が中心になり、薬の管理をおこなっている②薬効や副作用など薬の説明書を確認できるようファイルしている③服薬チェック表がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①利用前に本人や家族へ話をきいている②状態に応じて、提案をしている③全体での、レクも必要に応じておこなっている④行事計画を行い、外出も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	①買い物、受診など行っている②四季を感じるため、ドライブ（紅葉狩りや蓮の花や花見など）行っている③本人・家族と共に外出の機会を計画させて頂いている④外出について、話を聞いたり提案をしたり行っている。	利用者の外出への意向は、日常の関わりの中で把握し、天候や健康状態に配慮しながら希望に沿って散歩や買い物、一時帰宅、外食、臺参、美容室等への外出を、家族と協力して取り組んでいる。また、季節の花見やドライブ等、ホーム全員の外出も計画し、利用者の状態に応じて小グループに分けて実施する等、細かに配慮して利用者のリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>①利用前にお金について本人・家族に話を聞く②預かり依頼書の作成と記入を行っている③本人の必要に応じて、所持されている④必要に応じて本人が管理する部屋の施錠ができる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>①利用の際には、電話連絡の確認を行っている②携帯の使用をしている方もいる③事業所の電話を利用して話したい相手と話している④手紙のやり取りをしている方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>①「音」「風」「光」にこだわった設計になっている。②季節の食材をテーブルの上に置く③外での食事ができる場所がある④匂いにも気をつけている⑤自由な外出ができる。</p>	<p>天井や窓の高さ等に工夫された構造で、ホーム全体が明るく余裕ある広さが確保されている。リビングには、テーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性を考慮して配置され、廊下やコモンスペースには休憩用の椅子が配置されている。利用者の作品や写真、活け花が随所に飾られ、周辺の景色や園庭の樹木等からも四季が感じられて落ち着いた雰囲気となっている。衛生管理が徹底され、空調、異臭等にも配慮して、気持ちよく過ごせる環境となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>①食堂やコモンスペース空間の利用は自由であるという雰囲気作りを行っている②利用者はそのときの状況に応じて思い思いに過ごされている③テーブルも人数にあわせて形を変えられる④隣には、小規模もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①契約の際に、本人が過ごしやすい環境について話を聞く②必要に応じて提案させて頂く③馴染みの家具等を設置して頂く④自宅での生活状況の確認をする。	余裕のあるフローリング仕様の居室は、掃出し窓が設置され、明るく落ち着いた雰囲気、ベッド、エアコン、洗面台が備えてある。利用者は、テレビや家族写真、使い慣れた机や椅子、食器、小物等を自由に持ち込み、また自身の作品等も飾って、その人らしい快適な空間となっている。洗面台は車椅子対応の使いやすい仕様で、清掃や整理整頓等を利用者の意向を確認しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①トイレ以外、どの部屋からも外へと出る事ができる②居室のアレンジは自由③ベットが備え付けてある④建物内部は、履物・素足どちらでも自由⑤時計がない⑥話をしたい時に、話を聞いてくれる人がいる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない